防　衛　省
２３．６．１

防衛大学校改革に関する検討委員会報告書のポイント

１　建学の精神･防大生の誇り

(1)　建学の精神
・民主主義時代に相応しい幹部自衛官養成学校の設立
・「真の紳士淑女にして、真の武人」を目指し、「広い視野、科学的思考力、豊かな人間性」を育む教育

(2)　防衛大学校学生の誇り
・時代や環境を越えて、国防という崇高な使命を担うことの誇り
・２万人を超える卒業生の世代を超えた絆
・小原台キャンパス（リーダーシップの育成、「服従の誇り」の理解）に４年間を全力で生きる誇り
・事に臨んでは危険を顧みず、国と国民を守るため献身する覚悟と使命観を持つ誇り
・「ノブレス・オブリージュ」（「高き者の責務」）の自覚

２　防衛大学校の新たな役割･教育理念･防大ブランド

(1)　防衛大学校の新たな役割
・「知」「徳」「体」のバランス良い発展を目指す教育、「廉恥・真勇・礼節」の学生綱領の実践は不変
・幅広い任務をグローバルな環境下で遂行するに不可欠な柔軟な思考力・知的基盤の涵養をより重視し、基盤教育を強化
・安全保障に関する知識の社会的発信－公開講座や講演・出版など－
・地域社会との連携の強化

防衛大学校の教育理念

(2) 防衛大学校の教育理念を明確化

① 我が国の平和と独立を守り、国際社会の安定に寄与する自衛隊のリーダーを養成する。

② 「真の紳士淑女にして、真の武人」というように、リーダーに相応しい豊かな人間性を涵養する。「廉恥・真勇・礼節」の学生綱領をその中軸とする。

③ 伸展性ある知・徳・体のバランスのとれた基盤的素養を養う。広い視野と科学的思考力を特に重視する。

④ 国際社会の中での日本の防衛力を担う強い志と使命観を確立し、幹部自衛官として必要な基本的識能を身につける。

防大ブランド

(3) 「防大ブランド」の積極発信

① リーダーたる幹部自衛官となる者を育成する国内唯一の教育機関

② 安全保障学・危機管理学の研究拠点

③ 世界水準の幹部養成機関

３　人材確保のための施策

入試制度改革

(1) ＡＯ（アドミッション・オフィス）方式による総合選抜入試（仮称）の導入（２４年度試験から）
・筆記試験のみによらず、面接、体育、討議等により志願者の能力、適性等を多面的、総合的に判断
→　「知」のみならず「徳」「体」における優れた実績、入校意思、任官意欲も重視

(2) 新型一般入試の実施（２４年度試験から）
・現行一般入試に加え、２月から３月にかけて実施する新型一般入試を導入
・英数国の３科目、防大キャンパスのみで実施
→　一般大学の試験日程に合わせることでより多くの受験生に受験機会を提供

(3) 現行入試の実施要領の改善
・一般入試の一次試験（現在１１月に実施）を可能な限り後ろ倒しして実施（２４年度試験から）
→　夏休み終了後に本格化する高校生の受験準備にあわせる
・面接を重視し、資質・入校意欲を従来以上に考慮（２３年度試験から）

多様な人材の確保

(4) 高等専門学校卒業生の編入
・理工系人材の確保のため、高等専門学校卒業生を一般教育の３学年に編入、修士課程まで一貫教育実施を検討。防衛学教育、訓練、学生舎生活、人事管理等を検討（早ければ２５年度導入を目指す）

（参考）入試制度改革の概要（24年度におけるイメージ）

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

【推薦入試】
□出願　◎試験［防大］　☆合格発表

【（AO方式による）総合選抜入試（仮称）】
□出願　◎試験［防大］　☆合格発表

【現行一般入試を改善して継続】
←　出願　→
○（→○※）一次（学科）試験＋二次（小論文）試験［各地方協力本部（※※）］
※　一次試験期日の後ろ倒しを図る
△一次発表
※※　試験の防大キャンパスでの実施について検討する
☆二次試験（面接、身体検査）［方面総監部等（※※）］
☆←☆最終合格発表
☆　最終合格発表の前倒し

【新型の一般入試を追加】
出願□　試験［防大］◎　発表☆

【国公立大学入学試験日程（見込み）】
センター試験　19,20
出願　28―2/7出願
前期日程：試験　25,26　6-10発表
後期日程：試験　12,13　20～発表

（赤破線枠）の部分が新設予定の入学試験。

（具体的日程は検討中）

４ 教育訓練、研究の充実

(1) 学生の基盤的能力（基礎学力、基礎体力等）の強化、資質人格教育の充実

・高い能力を備えた幹部自衛官となるための教育訓練の強化

・地域研究、国際情勢等の基幹的科目の修得。リーダーシップ教育、文理交叉教育、体力養成プログラム等の強化

(2) 防衛・安全保障に関する教育研究の中心拠点化

・学術と実務が融合した防衛・安全保障の分野の最高の教育機関としての知的発信を通じ、防衛基盤を醸成

・専門教育の深化、学際的応用のため学科・学群を横断する新たな教育プログラムを創設

→　危機管理プログラム、安全科学プログラム、生命科学プログラム（仮称）

→　国際化に対応するプログラムの開設検討

(3) グローバル化、国際化への対応

・英語、第２外国語教育を強化

→　少人数クラスの推進

→　海外での活動に必要な実用的会話に重点

・外国士官学校との交流の強化

→　留学生の派遣の充実（派遣先での単位取得）

→　各国留学生の受け入れ態勢の整備

(4) 訓練の充実・改善

・国際平和協力活動、災害派遣等の経験を活かした指導や、統合マインドの強化に資する訓練の充実

・第一線部隊の生活体験を含めた研修の実施を行い、任官意思の早期確立も図る

・女子学生に配慮した訓練管理の実施、悩みや不安を受け止める体制の整備等により、任官への不安を除去

(5) 防衛医科大学校との連携

・幹部自衛官に必要なリーダーシップ教育として、防医大第１学年に対し、防衛大学校において約１か月間教育訓練を実施（２４年度から）
・防大と防医大で類似分野を研究している研究者の協働により、研究を更に深化

５　防衛大学校の運営、態勢等の改革

(1) 防衛大学校の一体的な機能発揮の態勢、教職員の人事管理

・部門横断的機能を強化
・指導教官の指導力向上と防衛学教官の活用

(2) 償還制度の導入・入学試験手数料徴収の検討・学位審査手数料の学生負担

・任官辞退者が費用を償還する制度を導入。国立大学授業料相当額を念頭に検討（２６年度入学生から実施）
・入学試験手数料徴収について、平成２６年度までに結論を得るべく引き続き検討
・学位審査手数料（25,000円）は、学生負担（２４年度卒業生から実施）

(3) ROTC(注)に類する制度を検討

・一般大学の学生で自衛官を目指す者の研修や教育訓練に防大の活用を検討（平成25年度までに検討）

(注)米国の予備役将校訓練課程(Reserve Officers' Training Corps:ROTC)は、主に大学に設置された、陸海空軍（及び海兵隊）の将校を養成するためのコース。修了者には士官学校、兵学校などの卒業生とともに初級将校への途が開かれる。